

## 第4回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2023年11月21日(火) 19時～20時30分
- ◇方法 Zoomによるオンライン方式
- ◇参加者 12名

- ◇実践報告 山形県天童市立寺津小学校教諭 近野巧先生  
小学校4年 総合的な学習の時間

「海の豊かさを守ろう ～寺津小4年1組 海を守り隊～」

### 【実践概要】

#### ○授業のねらい

8名の学級 農業がさかんな地域 須川や寺津沼などもあり自然豊かなところ  
水が身近で大切だと感じられるところ → 水に関わる実践は子どもの主体的な学びになるはず  
学校教育目標「あかるく かしこく たくましく」(自立・共生)  
意欲のある子どもたちだが、振り返りを自分の生活につなげられない子どもが多い  
「かしこく」・・・自分の考えをもって聞き、表現する子ども  
自分の思いが伝わるような話し方やプレゼンテーション ICTの活用  
考える過程や結果を可視化する授業の構成

#### ○実践の内容

##### テーマ設定まで

取り組みたいテーマについて、海洋ごみグループ・将棋グループ・自然グループに分かれる  
この時点で指導者は将棋をテーマに実践しようとしていた  
話し合いを繰り返す中で、海洋ごみについて取り組むことになった  
去年の自由研究で頑張った児童がブレずにこれをやりたいと言い続けたからか  
カリキュラムを再構成し、海洋ごみをテーマにして取り組むことにした(校外学習も変更)  
社会科「水はどこから」との関連

川にペットボトルが落ちている この川は寺津沼につながっているのでは  
地域の探検から疑問に思ったことを、「位置や広がり」「時期や時間」「人々の工夫やひと・もの・こと  
とのつながり」「これからもことや自分にできること」の4つの視点で整理する  
水のろ過実験、ネイチャーセンターでの見学や体験、湧き水を飲む  
→ 「やっぱり水は大切!」「水に関わるテーマにしたい」

テーマを決めるためにはもう少し情報を集めよう!

海洋政策研究所の方との交流 海沿いの地域の市役所やボランティア団体の方に話を聞く  
・海洋ごみには「漂着ごみ」「海底ごみ」「漂流ごみ」などいろいろある  
・プラスチックごみが多い  
・マイクロプラスチックというものがある  
・海のことを考えることが私たちにもできること など

「テーマをどうするか？」

水がテーマになるが、海・川・湧き水とかもっと具体的な言葉にした方がいい  
湧き水も守りたいが、海を守るためには川や湧き水も守らなくては  
海を守るためにも川を守ることが、わたしたちにできることでは → 海洋ごみ

### テーマ設定後の子どもの様子 (8月～10月)

#### ・山形市内の小学校との交流

感想は言えたが質問できなかった 次の交流では質問できるように

#### ・寺津沼のごみ拾い①

想像以上にごみが多いのは悲しい もっとごみを減らしたい

#### ・鶴岡、田川地区の校長先生方との交流

これまでの取組について伝える どうしたらもっと伝える質が高まるか子ども自ら工夫する  
「自分の言葉で分かりやすく伝えることができた！」 8人とも意欲的に交流できた

#### ・寺津沼のごみ拾い②

前から1ヶ月しか経っていないけど思ったよりもごみがある  
このままだと海に流れてしまうから取りたいけど…取れない

### 子どもの変容

課題が自分事になりつつある 課題解決のためには自分たち8人だけの力では足りないと気付く  
交流やインタビューを繰り返す中で自信をつけた  
相手を意識した伝え方を工夫できるようになった  
(現在、育休に入り実践そのものは後任の先生に任せている状況)

### 来年度の計画について

- ・もし海・山・川に行くことができれば、どんな体験をすると、どのような学びにつながるだろうか？
- ・地域の人たちとともにできることは？
- ・校内での学びを充実させるために、日々の学習でできることは？

#### 【意見交流から】

- 島の学校だが、海を守るためには山が大事ということで、森林環境教育を実施している。海も山も自分事になりつつある。農業の地域で海がどこまで自分事になっているか？  
→ 寺津をなんとかしたいとはなっているが、海がそこまで自分事になっているとはまだまだ。
- 今後、子どもたちに期待する行動は？  
→ 地域の人たちといっしょにできる活動 行政を巻き込むような動き  
市や公民館などがやっている活動(ごみ拾い)などに積極的に参加するなど。
- 総合のカリキュラムに自由度が高いと感じたのだが、学校としては決まったものはないのか？  
→ 数年前からそのときの子どもの実態や興味・関心に沿ったものになった。  
教師の力量によって大きく変わってしまうので、課題は多々あると思う。  
現担任が「来年度その学年を持ったら」という観点で総合の計画を年度末につくることにした。
- 学んだあとに子どもたち自身がボランティアで動くことだけでも大きな価値があると思う。

- その地域だからこそできる総合のカリキュラムは、ある程度形にはしていきたいと思っている。
- 子どもと丁寧にテーマ設定していく過程がとても勉強になった。子どもの思考や興味・関心に寄り添ってテーマを決めていく様子がよく分かった。
- その学校だからこそできる、少ない人数だからこそできることに注力すべきで、それが強みになると思う。少人数だからできることを徹底的にやっていきたい。
- 総合のカリキュラムの継続性については、やることが決まっていて、やらされる学習は先生も子どもも楽しくない。少人数なら2学年または3学年合同でやると、違った継続性になっていくかも。
- オンライン交流でどう深まるかは、基本は子どもに任せるのだが、先生のやる気や見通し次第かと感じる。子ども同士が互いに刺激し合えるところに醍醐味がある。
- 総合のカリキュラムは、やはりコンテンツありきではなく、コンピテンシーベースで考えることが大事ではないか。